



## 2024年夏休みの活動報告 その1

夏休みが終わりいよいよ2学期が始まりました。この夏に国内外で様々な活動に取り組んだ生徒諸君の様子をご報告します。

### ①【第8回全国高校教育模擬国連大会】

8月6日(火)・7日(水)の両日に渡り全国から600名を超える参加者が代々木の国立オリンピック記念青少年総合センターに集結しました。今年は「薬剤耐性菌への対応」というテーマが設定されました。新型コロナウイルス感染拡大に直面した人類は通常では考えられないスピードでワクチン開発を成し遂げました。一方でワクチン供給という意味では全ての国・地域に偏りなく届いたとは言えません。今後もワクチンが存在しない新たな感染症発生の可能性は決して低いとは言えない状況の中で国際社会はどう対処していったらよいのでしょうか?本校から4ペアが受賞する快挙となりました。

#### C 議場最優秀賞 高校2年 富澤 蒼太・角田 俊明 (ナイジェリア大使)

今回 Nigeria 大使として C 議場で最優秀賞を受賞することができました、富澤蒼太、角田俊明です。まず率直な感想として最優秀賞を受賞できたことを非常に嬉しく思います。今回上手くいった要因としてはペア間での意思疎通をしっかりと取り続けていたことだと思います。当たり前ですが一人一人考えることは異なります。しかし、考えていることを共有しないで行動すると大事な場面でそれぞれが全く違う目的の行動をとってしまうことが考えられます。実際我々はそれによって直近にあった別の大会では大きな失敗をしてしまいました。その反省を踏まえて今会議では現在自分がやろうとしていることと相手にして欲しいことをこまめに話すことにしました。それによって今会議は自分でも満足のいく行動をとることができたと思います。本会議を成長のための更なる糧にしていければと思っています。ここまでお読みいただきありがとうございます。ございました。

#### A 議場優秀賞 高校2年 田村 悠貴・田口 尋一郎 (パナマ大使)

全国高校教育模擬国連大会に出場しました、高校2年の田村悠貴、田口尋一郎です。

A 議場でパナマ大使を務め、優秀賞を頂きました。優秀賞をとることができたものの、最優秀賞を目指してずっと頑張ってきたので、会議終了後は涙が出るほど悔しかったです。

各国それぞれが自国独自の国益を守るために議論しあう、そして世界にとってより良い政策を話し合う活動こそが、模擬国連だと思います。A 議場はその議論のレベルがとて高く、賞争いも過激なものでした。最優秀賞をとるために様々なことを試行錯誤し、会議に望んだものの、会議が終わってみると、もっと他の戦略で臨むべきだったか、他にできたことはあるんじゃないか、というような後悔の気持ちでいっぱいになります。今回の経験を今後の糧にしていきたいと思っています。

また、近年の模擬国連は傾向として、国益と言うものをあまり考えられていない大使が多くいると思います。一国の大使として出場する以上、国益というものは最も大事に考えるべきものです。しかし、ただただ目立ちたい、ただただ大きい声で叫んでいる、というような大使が本当に増えて

います。競技性も重視される競技であることは認識していますが、国益を守るという前提を忘れずに、今後も活動を進めていきたいです。

最後に、僕たちにとって模擬国連は、海城での中高時代を捧げている活動の一つです。こんなにも情熱を持って打ち込め、思わず涙を流すほど悔しい経験をできたのは、とても幸せなことだと思います。もうすぐまた別の全国大会があるので、そこで必ず最優秀賞を受賞できるよう頑張ります。



大使として参加した高1・高2の生徒たち

#### A 議場実行委員特別賞 高校1年 佐藤 圭悟・佐本 一樹 (ウズベキスタン大使)

この度、第8回全国高校教育模擬国連大会で審査員特別賞を頂きました、佐本一樹と佐藤圭悟です。今回、僕らは「薬剤耐性菌」をテーマにウズベキスタンの大使として他の大使とどうすれば国際社会として解決に向かうことができるのかを議論しました。ウズベキスタンは医療体制が整っていないことから薬剤耐性菌を生み出してしまっている現状があり、この問題の解決のために医療インフラ改善のための支援を先進国等に求めたいという立場でした。しかしただ支援を求めるだけでは受け入れられない(支援国も無限にお金があるわけではないので)と考えたため、支援内容を具体化したり、支援の透明性を確保したり、「支援をすることで今後薬剤耐性菌が流行して支援国に被害が出てしまう可能性が大幅に減る」などの支援を行うメリットを提示したりして、交渉をしていました。支援国と被支援国の間で交渉が難航することもあり、成果文章も納得のいくものではない部分もありましたが最終的にウズベキスタンの国益が反映された文章を作ることができ、審査員特別賞もいただくことで嬉しいうれしい限りです。ですが個人的にまだまだ未熟な部分が残る会議でしたので、今後もその反省を繰り返し、精進していきたいと思っております。最後に、この場を借りて2日間引率に来て下さった先生方、会議運営に携わった全ての皆様、そして何よりグローバル部の皆様に感謝申し上げます。2日間、本当にありがとうございました！

**B 議場実行委員特別賞 高校1年 南部 航希 高校2年秋田 王光（中国大使）**

全国高校教育模擬国連大会に出場しました、秋田王光、南部航希です。僕たちは今年の4月からペアを組み始めました。ペアとして出場できた大会も数回で、全国大会に出場することに対しては期待より不安の方が大きかったです。

結果は「フロント特別賞」で賞を取れたことをうれしく思う反面、満足な結果ではありません。しかし、最優秀賞に値する行動がとれていたのか、という自信をもって答えられません。出場者同士の投票で勝敗が決まる大会の性質上、他のペアからどう映るかには細心の注意を払ったつもりでしたが、今では大会中の発言や行動が「あれはよくなかったかもしれない」と多々思われます。同じ高校に最優秀賞ペアがいることは、捉え方によって大きく意味が変わると思います。一方では、悔しさや羨ましさ、自分を擁護するような考えも浮かんでしまいます。他方で、自分と相手の取り組み方の双方を比較して、自分の良くない点を洗い出すこともできると思います。二つの捉え方のどちらに傾倒することもなく、この大会を自分の成長につなげていきたいです。



大使としてではなく大会の運営に関係した在校生や卒業生もおりました。



## ②【AIG 高校生外交官プログラム】

昨年グローバル通信132号で保険会社 AIG が主催する高校生外交官プログラムをご紹介しました。日本全国から20名のみが参加できるプログラムですが、高校2年生阿部潤太君が見事選考を通過してこの夏にアメリカに約2週間派遣されました。本文中に出てくる HSD は High School Diplomat (高校生外交官) の頭文字を指します。

### HSD 渡米プログラムで気が付いたこと

高校2年 阿部 潤太

HSD U.S. 2024 に参加し、異なる文化や背景を持つ仲間との深い交流を通じて、私は多様性の価値を改めて認識しました。私が今回参加した HSD (High School Diplomats) 渡米プログラムは、日米の高校生が10日間にわたり共にバージニア大学の寮で過ごし、相互理解を深めることを目的とした文化交流プログラムです。10日間の交流期間の前には、数日間のワシントン D.C. 観光ツアーがあり、高校生外交官としてアメリカの歴史や政治、文化について多くのことを学ぶことができました。



交流プログラムの一つとして私がとても楽しむことができたのは、日米の参加者がお互いの国を紹介するために行ったプレゼンテーションです。このプレゼンテーションの準備には多くの時間を費やしましたが、その過程で自国の文化や歴史について再認識する機会となり、発表当日は楽しんで行うことができました。基本的に午前中はバージニア大学で模擬授業を受け、午後はダンスパーティーなどの様々なアクティビティを行い、毎日のように様々な交流の機会が満載でした。

特に印象的だったのは、ルームメイトのカイとの経験です。彼自身が認めていたように、彼は見た目や文化的背景は中国系であり、私が想像していたアメリカのイメージとは大きく異なっていました。このため、何となく違和感を覚えていました。私が他の多くの仲間たちと積極的に交流したいという強い意志を持っていたのに対し、カイはむしろ私と二人きりの時間を大切にしていました。この違いが原因で、最初はうまくいかない関係に苦しみました。しかし、その中で諦めることなく、プログラム内でのリフレクションの時間などを利用して、少しずつお互いの考えや感情を共有するようになりました。対話を重ねるたびに、彼の価値観や文化的背景に対する理解が深まり、私自身の中にあつた先入観や固定観念が少しずつ崩れていきました。

このプロセスを通じて、私は非常に大きな気づきを得ました。それは、アメリカという国が本当に多様性に溢れているということです。頭の中では、アメリカが多様性を尊重する社会であることを理解していたものの、実際には自分の中に偏見が残っていたことに気づかされました。カイとの交流を通じて、私は本当の意味での多様性に触れることができました。

私の視野はまだ狭いと感じています。それでも今回、自分の固定観念を様々な人とのコミュニケーションや対話を通じて乗り越えた経験から、将来国際協力を担う一員となるため、この学びを活かしていきたいと強く思います。世界にはまだ、対話を通じた相互理解や多様性の受容が十分に浸透していない部分が多くあるのではないかと考えています。だからこそ、私たちは互いの違いを尊重し、共に学び合う姿勢を持ち続けることが重要ではないのかと気づきました。

## UWC (United World College) 2025 年度派遣奨学生選考の紹介 (現高 1 対象)



UWC (ユナイテッド・ワールド・カレッジ) は、世界各国から選抜された高校生を受け入れ、国際感覚豊かな人材を養成する国際的な民間機関です。現在までにイギリス、カナダ、イタリア、アメリカ、オランダ、ドイツ等、世界各国のカレッジ (高校) に、日本から延べ 700 名を超える高校生が派遣され、国際バカロレアに基づく教育を受けています。派遣期間は高校 2 年生の夏から 2 年間、日本協会では前年冬に高校 1 年生を対象とした下記選考会を行います。

### 一次選考

日時：2024 年 12 月 15 日 (日) 13:45~16:00 (予定)

場所：大手町サンケイプラザ 3F 302・303 号室 (千代田区大手町 1-7-2)

### 二次選考

日時：2025 年 2 月 10 日 (月) 一次選考通過者対象

### 2025 年度派遣 UWC 奨学生に関する説明会

日時：9 月 22 日 (日) 14 時~17 時

形式：Zoom を用いたウェビナー形式

《ご登録 URL》

[https://zoom.us/webinar/register/WN\\_6h8ZhJITSV-xz\\_6achzm-w#/registration](https://zoom.us/webinar/register/WN_6h8ZhJITSV-xz_6achzm-w#/registration)

[登録期間 8 月 20 日 (火) ~9 月 16 日 (月)]

プログラムの詳細、選考方法等については以下の URL からご確認下さい。

<https://www.keidanren.or.jp/japanese/profile/UWC/index.html>

\*このプログラムは 2 年間に渡るもので UWC 校で卒業資格を取ることを目指すものです。これまで何名か本校からも選考を通過した生徒が出ておりますが、いずれも本校には籍を残さず退路を断って出掛けていきました。本校に戻ってくる 1 年留学とは異なり、応募には相当の覚悟が必要となりますのでどうか慎重にご検討下さい。

## 補足情報及び訂正

①

グローバル通信140号でお知らせした下記のイベントについて掲載時には詳細が決まっておりましたが、参加大学など現在情報がアップデートされております。LINEで事前登録が必要になるようですので、下記のURLからご確認をお願いします。

EducationUSA 主催「アメリカ大学留学フェア」(無料)

日時：9月21日(土) 10:00～17:00

会場：赤坂インターシティコンファレンス

下記のURLから事前登録をお願いします。

<https://educationusa-fair.jp/>

\*当日は本校は通常授業実施日となります。午前中を公欠扱いにすることはできませんので、参加希望者は午後からの参加となります。

②

グローバル通信141号でご紹介した「アスペンジュニアセミナー(高2限定)」の校内募集について締め切りを9月4日(木)午前8時までと記載しましたが、日付と曜日が一致しておらず失礼しました。遅い方に合わせて9月5日(木)午前8時までとします。対話を通じて議論を深める経験ができる又とない機会です。応募をお待ちしています。